



## 2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2020年8月12日

上場会社名 株式会社 シャルレ

上場取引所 東

コード番号 9885 URL <http://www.charle.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 奥平 和良

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員 管理本部長 (氏名) 高田 博祐

TEL 078-792-8565

四半期報告書提出予定日 2020年8月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第1四半期の業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	2,662	△20.8	△539	—	△530	—	△1,055	—
2020年3月期第1四半期	3,361	△2.1	△102	—	△99	—	△74	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	△66.65	—
2020年3月期第1四半期	△4.70	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	20,688	18,204	88.0	1,149.60
2020年3月期	22,263	19,400	87.1	1,225.11

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 18,204百万円 2020年3月期 19,400百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年3月期の業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,400	△21.4	△765	—	△760	—	△1,290	—	△81.46
通期	13,500	△13.9	△1,280	—	△1,275	—	△1,810	—	△114.30

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期1Q	16,086,250 株	2020年3月期	16,086,250 株
2021年3月期1Q	250,409 株	2020年3月期	250,408 株
2021年3月期1Q	15,835,841 株	2020年3月期1Q	15,835,974 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。詳細は添付資料の3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第1四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延により、企業収益や雇用・所得環境が悪化しつつも、政府及び都道府県の各種政策の効果もあって、足下では持ち直しの動きも見られましたが、依然として国内の景気は厳しい状況となりました。海外においても各国で経済活動が段階的に再開されつつも、感染症の動向や金融資本市場の変動等の懸念も引き続きあることから、先行き不透明かつ厳しい状況が続いております。

国内レディースインナーウェア市場におきましては、政府による緊急事態宣言や外出自粛要請により、個人消費は大幅に減少し、一段と厳しい経営環境が続いております。一方、外出自粛の影響を受け、他社においては巣ごもり需要によるネット通販等の利用が増加するなど、消費行動や生活様式においても、大きな変化が生じております。

このような環境のもと、当社においては、新型コロナウイルス感染症への対応として、社内において安全予防対策の注意喚起や出張自粛、テレワークの推進等に取り組むとともに、国内外の商品生産拠点における稼働状況や商品仕入状況の把握、また販売時期や活動の見直し等を行い、リスクの最小化を図ってまいりました。ビジネスメンバーにおいては、販売活動におけるガイドラインを策定し、周知徹底するとともに、販売活動における負担軽減等を目的とした活動支援対策を打ち出しました。

商品面におきましては、世界的な感染拡大により、海外取引先からの製品入荷遅れによる発売延期、また不要不急の外出自粛によるビジネスメンバーの活動低下や顧客の消費マインドの低下など、販売状況に大きく影響を受けました。衣料品類では、数量限定商品として、当社独自設計のカップ付きインナーである「シャルレBLトップ(タンクトップ)」を発売するとともに、縫い目やテープなどを使用しないインナーであるハーフトップ、カップ付きタンクトップ、ショーツを発売しましたが、いずれも販売状況は著しく計画を下回り低調な推移となりました。結果として、既存定番商品の売上減少も加わり、インナーウェア類全体の売上高は前年を大幅に下回りました。アウター類では、夏用のカットソーやパンツの発売延期、また「サポートウォークシリーズ」におけるジャケットやカットソーなどの販売不振により、アウター類全体の売上高は前年を大幅に下回りました。生活関連商品類では、前年に発売した数量限定商品である「冷感敷きパッド」がほぼ完売しましたが、当期間においては新商品の投入を行わなかったため、前年を大幅に下回りました。以上のとおり、衣料品類全体の売上高は19億96百万円(前年同四半期比23.9%減)と前年を大幅に下回りました。

化粧品類では、ヘアケアの「シャルエーゼ」ブランドより、シャンプー等のヘアケア商品を組み合わせたセット商品を数量限定にて発売し、販売状況は好調に推移しましたが、既存定番商品の売上高が低調に推移したため、化粧品類全体の売上高は3億86百万円(同17.3%減)と前年を大幅に下回りました。

健康食品類では、内臓脂肪を減らす機能を持つ機能性表示食品「びわの葉入りまるごと発酵茶」の販売状況が好調に推移し、また、100%手摘みのモリンガの青葉をまるごと配合した「輝く太陽のモリンガ青汁」の売上高が貢献したため、健康食品類全体の売上高は2億6百万円(同5.1%増)と前年を上回りました。

営業施策面におきましては、営業拠点を8支店体制から2拠点に統合し、総合的な営業力を発揮するための営業支援体制を開始しました。また、ビジネスプログラムにおいては、ビジネス参画の条件や昇格条件の緩和をするなど見直しを行い、インセンティブ制度においては、ボーナス制度の設計変更や新たなボーナス制度の導入などを実施してまいりました。しかしながら、緊急事態宣言等の発令を受け、営業活動を自粛したため、十分な支援活動が行えず、外出制限等によりビジネスメンバーの稼働率は大幅に低下しました。そのため、緊急の活動支援対策として、ボーナス制度の上乗せやサンプルの無償提供などを順次実施してまいりました。

通信販売の「シャルレダイレクトサービス」におきましては、ビジネスメンバーの稼働率の低下の影響を受け、売上高は前年を大幅に下回る結果となりました。

新規事業におきましては、国内移動や海外渡航の制限による影響は受けておりますが、当社の第2の柱となる事業の開発に向けて引き続き探索しております。

これらの結果、当第1四半期累計期間の経営成績につきましては、売上高は26億62百万円(同20.8%減)と減少しました。利益面につきましては、売上高の減少等により、営業損失は5億39百万円(前年同四半期は1億2百万円の営業損失)、経常損失は5億30百万円(前年同四半期は99百万円の経常損失)、四半期純損失は繰延税金資産の取崩しもあり10億55百万円(前年同四半期は74百万円の四半期純損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は、現金及び預金の減少14億72百万円、商品の増加3億56百万円、繰延税金資産の減少4億48百万円等により前事業年度末に比べ15億74百万円減少して206億88百万円となりました。

負債は、未払金の減少97百万円、未払法人税等の減少1億78百万円、賞与引当金の減少1億24百万円、繰延税金負債の増加76百万円等により、前事業年度末に比べ3億78百万円減少して24億83百万円となりました。

純資産は、剰余金の配当1億58百万円、四半期純損失10億55百万円等により、前事業年度末と比べ11億95百万円減少して182億4百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は、前事業年度末の87.1%から88.0%に上昇しました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年7月31日に公表しました業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,041	11,569
売掛金	97	100
商品	3,334	3,690
貯蔵品	60	31
その他	307	328
貸倒引当金	△7	△5
流動資産合計	16,833	15,714
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,008	990
土地	907	907
その他(純額)	538	492
有形固定資産合計	2,454	2,390
無形固定資産		
ソフトウェア	762	835
その他	10	9
無形固定資産合計	772	845
投資その他の資産		
投資有価証券	425	444
前払年金費用	972	956
繰延税金資産	448	—
その他	360	341
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	2,202	1,738
固定資産合計	5,429	4,974
資産合計	22,263	20,688

(単位:百万円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2020年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	594	615
未払金	864	767
未払法人税等	192	13
賞与引当金	175	50
その他	352	314
流動負債合計	2,179	1,762
固定負債		
売上割戻引当金	188	191
退職給付引当金	209	186
繰延税金負債	—	76
その他	284	266
固定負債合計	682	721
負債合計	2,862	2,483
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,600	3,600
資本剰余金	4,897	4,897
利益剰余金	11,046	9,832
自己株式	△131	△131
株主資本合計	19,412	18,199
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△12	5
評価・換算差額等合計	△12	5
純資産合計	19,400	18,204
負債純資産合計	22,263	20,688

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	3,361	2,662
売上原価	1,800	1,498
売上総利益	1,560	1,164
販売費及び一般管理費	1,663	1,703
営業損失(△)	△102	△539
営業外収益		
受取利息	0	0
有価証券利息	1	1
雑収入	2	6
営業外収益合計	4	8
営業外費用		
支払利息	0	0
雑損失	0	0
営業外費用合計	1	0
経常損失(△)	△99	△530
特別損失		
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	—	0
税引前四半期純損失(△)	△99	△530
法人税、住民税及び事業税	2	2
法人税等調整額	△28	522
法人税等合計	△25	524
四半期純損失(△)	△74	△1,055



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。